

第67回北海道歯科技工学術大会開催報告

公益社団法人北海道歯科技工士会 常務理事 村上 珠緒

2023年11月18日（土）に恵庭市の緑と語らいの広場「えにあす」において第67回北海道歯科技工学術大会が開催されました。

講演は、はじめに i-Dental Lab の伊原啓祐先生に「『かたち』と『色』の120分ー基礎から学ぶ臨床技工のポイントー」との演題で、臨床で求められる『かたち』と『色』の理解と再現について、伊原先生の16年間の卒業後教育機関での教員経験を活かされ、基本からわかりやすく解説していただきました。『かたち』については1本1本の形態の重要性だけでなく、それをどのように排列し、咬ませるか、CADデザインに活かすためのポイントをまとめられ、『色』についてはシェードテイク画像の色調の読み取り方を細かく解説いただきました。形態と色調再現に対する理解が深まり、臨床での質の向上へと繋がるご講演をいただきました。

続いて、株式会社ラボコミュニケーションズ 代表取締役 佐野隆一先生に「補綴再製をなくすためのアナログとデジタルの視点」との演題で、ご講演いただきました。「補綴再製をなくすためのアナログ視点」として、寒天アルジネート印象、シリコン印象や模型、咬合採得についてお話いただき、「補綴再製をなくすためのデジタル視点」として、デジタルだからこそ気をつけたいポイントやスキャンの誤差への対応、アナログを活かしたデジタル活用など解説いただきました。そしてそこに関わる技術とコミュニケーションを通じて、デジタルだけでは成し得ない、歯科技工士という“人”が関わる意義を考えさせられる大変貴重なご講演をいただきました。

会員研究発表においては、札幌歯科技工士会所属の木谷貴昭氏に「歯科技工士が考える歯周組織の重要性」という演題で軟組織の特性を理解する重要性について症例を交えて発表いただきました。続いて札幌歯科技工士会所属の四釜一氏に、「鋳造から切削加工へ、ミリングチタン床の良さ」という演題でCAD/CAMが進化し精度面の不安定さ及び鋳造欠陥を補えるようになった切削加工への転換についてお話しいただきました。

今回の学術大会は、オンラインでも配信するハイブリッド形式で開催されました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

